Annual Activity Report

2019-2020

認定NPO法人テラ・ルネッサンス / 2019年度年次報告書



Terra Renaissance

ひとり一人に未来をつくる力がある

認定NPO法人 テラ・ルネッサンス





2019年度・活動のお礼とご挨拶

他機関との連携強化から、自立支援を促進



今年度は、南スーダン難民への自立支援の拡充とともに、国連移住機関（IOM）のパートナーとしてブルンジで事業を実施するなど他機関との連携も強化しながら、自立を目指した支援を促進してきました。今年3月にはコロナ危機により大きな影響を受けましたが、日本の皆様からのご支援のおかげで、現場のニーズに即した感染予防や緊急支援を開始することができました。ますます流動性が高まる社会情勢のなかで、今後も様々な困難やリスクにしなやかに適応できる組織作りを目指していきたいと思います。継続的なご支援を心よりお願い申し上げます。

理事長
海外事業部長
小川真吾

「自立」に有効な手段が、明らかになってきた



カンボジア・ラオスにおいて、新型コロナウイルスの感染による直接の影響は大きくありませんが、経済は大きな打撃を受けています。仕事を失った人も多いなか、これまで実施してきた現地にある技術や物を活用し、持続可能な複数の収入源を確保する支援方法は、農村の村人たちが「自立」していくために、有効な手段となることが分かってきました。日本の皆様からのご支援に、感謝を申し上げます。今後も、問題の根本的な解決を目指した活動を展開していきますので、引き続きのご支援を、どうぞよろしくお願いいたします。

理事
アジア事業マネージャー
カンボジア事務所長
江角泰

“テラ・ルネッサンスらしさ”を、貫いていくこと



2019年度末に、新型コロナウイルスの感染が地球規模に拡大。テラ・ルネッサンスも国内外の事業で様々な影響を受けることに。移動や人が集まることが規制され、事業を続けるのが難しいなか、知恵を絞り、勇気をもって、各地のスタッフが［新たな試み］を重ねてくれています。まさに、これが「テラ・ルネッサンスらしさ」。どんな状況になろうとも、世界平和というビジョンに向かい［今、自分にできること］に注目し、一歩を踏み出していく。それを貫けるのも、テラ・ルネッサンスを応援くださる皆さんのおかげなのです。心から感謝申し上げます。

創設者・理事
事務局長
鬼丸昌也

新型コロナウイルスで実感した、世界とのつながり



2019年度は、新型コロナウイルスの感染拡大という予期せぬ事態が発生しました。新型コロナウイルスの感染拡大は、多くの方にとって初めての経験であり、不安な日々を過ごすとともに、人の移動制限や流通の停滞など、様々な影響を通して、私たちの生活と世界のつながりを実感させるものでした。今後も予測が難しい状況が続きますが、職員・スタッフ、そして、ご支援くださる皆様とともに、「すべての生命が安心して生活できる社会（＝世界平和）」の実現を目指して、より一層邁進したいと思います。日々のご支援、ご協力に、感謝申し上げます。

理事・大槌復興
刺し子プロジェクト事業部長
政策提言担当
吉田真衣

スタッフ一覧 - 世界で活動する仲間たち -

本部事務局(京都)


創設者・理事・事務局長
佐賀事務所所長
鬼丸昌也


事務局次長
啓発事業部長
小田起世和


啓発事業部
講演企画・支援連携 担当
栗田佳典


啓発事業部
支援者サービス 担当
上野知子


管理部長
隅田千恵


管理部
西川智子


啓発事業部
法人連携 担当
藤森みな美


啓発事業部
法人連携 担当
米田瑞希


京都事務局スタッフ
鎌田久美子

本部事務局インターンシップ(研修生)


福井妙恵


津田理沙


西尾育海


元浦菜摘


奥田彩花


高口 望

佐賀事務所


啓発事業部
オンラインマーケティング担当
佐賀事務所スタッフ
島 彰宏


佐賀事務所スタッフ
佐々木純徹

大槌事務所


理事・大槌復興
刺し子プロジェクト事業部長
政策提言担当
吉田真衣


会計担当
黒澤かおり


販売管理担当
佐々木静江


生産管理担当
佐々木加奈子

コンゴ事務所


理事長
海外事業部長
小川真吾


アフリカ事業
コーディネーター
トシャ・マギー


コンゴ事務所長
テオフィー・チシバンジ


洋裁訓練講師
デオ・カハリ


フィールドスタッフ
ジョセフィン・ブクル


会計補助
マオンピ・カンツ・ジョングリ


フィールドスタッフ
ピーター・バセネネ


フィールドスタッフ
クロビス・チンゴンベ


倉庫管理担当
ジャンピエール・チルフラ


フィールドオフィサー
ムケカ・ルイス


フィールドスタッフ
マタパノ・ルワバグマ


倉庫管理担当
エマニュエル・ントゥバ


セクレタリー
カニィンダ・ロジャ


警備員
フォーステン・チャブィヌエ


ドライバー
イルンガ・ジャンルック


ドライバー
ビシムワ・ギスライン

ウガンダ事務所(グル)


アフリカ事業
マネージャー
鈴鹿達二郎


ウガンダ事務所長
オテマ・ジミー


能力向上支援担当
(木工大工訓練講師)
オドン・ベンソン

能力向上支援担当
(洋裁訓練講師)
アニェコ・ビッキー

能力向上支援担当
(洋裁訓練講師)
オコト・ジョセフ

BHN支援担当
オチャカ・グレース

BHN支援担当
アティム・クリスティーン

管理補佐
オケロ・リチャード

セキュリティ担当
オチャカ・ジャコブ

セキュリティ担当
オモヤ・チャールズ

管理・会計補佐
アワチャンゴ・コンシネイト

ドライバー
オビナ・ディケンス

心理社会支援担当
オジョク・デービッド

能力向上支援担当
(服飾デザイン講師)
オボル・サム

能力向上支援担当
(木工大工訓練講師)
オラー・サミュエル

ブルンジ事務所

アフリカ事業
サブマネージャー
古岡 薗

プロジェクトコーディネーター
エジマナ・パシフィック

ドライバー
マサボ・ティエリ

セクレタリー
ンデレイマナ・フェリキール

養蜂訓練講師
ビギリマナ・エマニュエル

トレーニングオフィサー
ムレルグワ・ゼノン

フィールドオフィサー
ジョゴリ・ディオメッデ

清掃員
マニラキザ・アナニアス

ウガンダ事務所(アジュマニ)

プロジェクトコーディネーター
(南スーダン難民支援)
ジェームズ・カオ

管理・会計補佐
ミシェル・ビチュラ

清掃調理担当
アシアンゾ・ジャネット

ドライバー
オジョク・デリクソン

編物訓練講師
エヴァリン・リミオ

洋裁訓練講師
オダマ・マイケル

保健スタッフ
アケチ・エヴァリン

清掃調理担当
マコミコ・サラ

セキュリティ担当
エベル・ピーター

編物訓練講師
ムングディア・ジェーン

洋裁訓練講師
アクル・ジョアン

木工大工訓練講師
エデマ・ジェームズ

ロジスティシャン
シティマ・ケミス

セキュリティ担当
ドゥク・ジョージ

レンガ積み工訓練講師
カカク・キジト

レンガ積み工訓練講師
アリア・カディジャ

木工大工訓練講師
エチマ・アイザック

清掃調理担当
ステラ・バヨア

セキュリティ担当
アイザック・ビル

ビジネス訓練講師
タバン・アリカンジェロ

養豚訓練講師
ピーター・ラジュル

養豚訓練講師
ダウディ・エマニュエル

溶接訓練講師
オレマ・ジャスティン

溶接訓練講師
モリ・チャールズ

カンボジア事務所

理事・カンボジア事務所長
アジア事業マネージャー
江角 泰

販売支援担当
サムリット・ラウ

プロジェクトオフィサー
リー・サリアップ

フィールド事務所警備員
スーン・ソーン

パッタンバン事務所警備員
ソーン・サウ

プロジェクトコーディネーター
クン・チャイ

販売支援担当
ヨート・イェト

ドライバー
アシスタント
カーイ・サロン

ドライバー
アシスタント
ヴィート・ヴィ

ラオス事務所

プロジェクト・マネージャー
飯村 浩

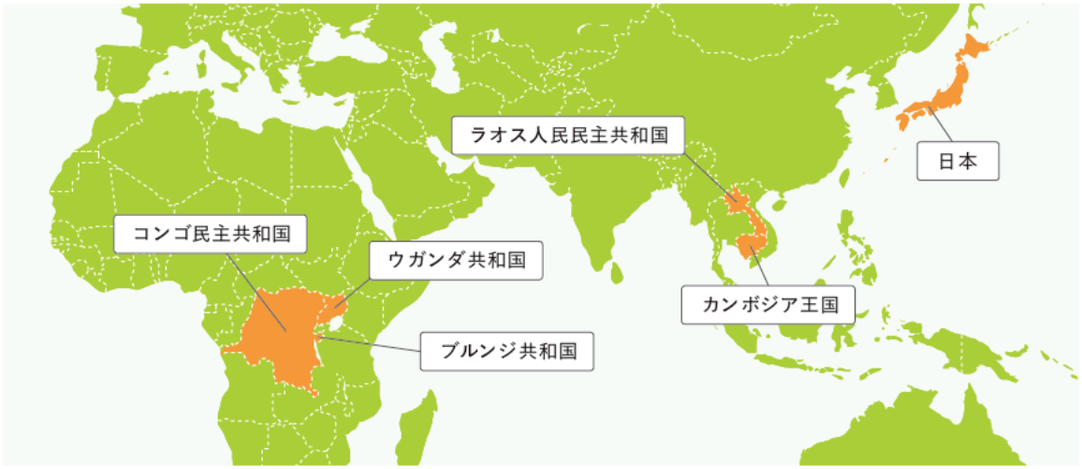
プロジェクト・アドバイザー
センケオ・シソブン

プロジェクトオフィサー
ナムチャイカム・ニョイサイカム

プロジェクト・オフィサー
ロン・ハー

プロジェクト・コーディネーター
ウテン・ポンカムパン

活動地域・内容 / 解決に取り組む課題



コンゴ民主共和国	●紛争の影響を受けた最脆弱層女性に対するレジリエンス向上支援プロジェクト ●子どもの徴兵予防プロジェクト ●紛争下で生きる最脆弱層世帯の初等教育支援および養蜂ビジネス企業支援プロジェクト ●紛争被害女性の生計向上支援フォローアッププロジェクト
ウガンダ共和国	●元子ども兵社会復帰支援プロジェクト ●元子ども兵社会復帰支援プロジェクトにおける長期的インパクト評価事業 ●畜産支援による酪農組合開発事業(第2フェーズ)後方支援事業 ●南スーダン難民居住区におけるPSNsに対するオーダーメイド型人道支援プロジェクト ●南スーダン難民居住区及びホストコミュニティにおける自立支援プロジェクト
ブルンジ共和国	●農村部コミュニティにおける社会的弱者(EVIs)世帯の自立と自治支援プロジェクト ●紛争被害者及び最貧困層住民の能力開発を通したコミュニュティーレジリエンス向上プロジェクト フェーズ2～生産者協同組合の基盤整備支援～ ●帰還民・国内避難民・ホストコミュニティの能力強化を通したコミュニティレジリエンス促進プロジェクト
カンボジア王国	●地雷埋設地域の脆弱な障害者家族への生計向上支援プロジェクト ●地雷埋設地域村落開発支援プロジェクト ●地雷撤去支援プロジェクト
ラオス人民民主共和国	●不発弾汚染地域における養蜂の技術向上と普及を目指した“farm miel”プロジェクト
日 本	●啓発活動(講演、ワークショップ、スタディツアー、パネル展示など) ●政策提言(武器貿易条約締結に向けたキャンペーン及び政策提言活動など) ●東日本大震災復興支援活動(ともつな基金/大槌復興刺し子プロジェクト)


地 雷


小型武器


子ども兵

＋


平和教育

目的の世界 テラ・ルネッサンスの目的(ヴィジョン)

すべての生命が安心して生活できる社会(＝世界平和)の実現

使命の樹 テラ・ルネッサンスの使命(ミッション)

当会の事業を通じ、人々に『次世代に対する責任』を啓発し、
それぞれが個人、家庭人、社会人、そして地球市民として、
未来の子どもたちの生活をも視野に入れた生活(簡素な生活)を
実践することにより、人類共通の理想『世界平和』を実現する。

理念の土壌 テラ・ルネッサンスの活動理念

1. 私たちは一人ひとりに「未来をつくる力」があると信じ、市民の可能性を追求しています。
2. 私たちは内なる変化がすべての変化の始まりであり、変革の主体者は私自身であることを理解しています。そして、他人も変革の主体者であることを理解し、相手を尊敬しています。
3. 私たちはあらゆることは常に変化することを理解し、あきらめずに活動し続けています。



ひとり一人に未来をつくる力がある

テラ・ルネッサンスのすべての活動は、設立目的(ヴィジョン)を追求するために行われます。
ヴィジョンを達成するために、責任を持って果たさなければならない任務が使命(ミッション)です。
そして、すべての活動の指針となるのが、活動理念です。

2019→2020 ACTION TOPICS

2019年度 活動成果のトピックス



カンボジア　→ P10〜

地雷撤去を推進、2,167世帯に安全になった土地を提供

「ボブキャット」という灌木除去機の機械チームと、地雷探知犬チームの連携により12発の危険物が処理され、東京ドーム11.3個分に当たる面積が安全な土地に。


「重箱式巣箱」から採蜜する訓練中

ラオス　→ P15〜

蜂蜜収穫量270%の増加量を実現 不発弾汚染地域で自然とともに生きる

養蜂事業2年目のポンカム村とムアン村で、事業開始前の年間収量から大幅な増加がみられました。森林保全や環境に関するワークショップも行われています。



ブルンジ　→ P16〜

農村部コミュニティにて48名が、養蜂・養豚技術の最終試験に合格

2018度に技術訓練を受けた洋裁・ヘアドレッシングの対象者40名も、グループに分かれて開業しています。計88世帯が自立のために大きく前進しました。


子どもたちのそばでヤギの世話ができます

コンゴ　→ P20〜

家畜を提供した世帯の8割で飼育・繁殖が順調に進む

家族が離れることなく家畜を飼育することで、収入源の確保だけにとどまらず、武装グループに襲われたり、徴兵されたりするリスクも減少しています。


世帯によってニーズもそれぞれです

ウガンダ　→ P23〜

難民居住区で51世帯のニーズに合わせた物資を提供

南スーダン難民の方たちのなかでも人間の基本的ニーズを満たして生活することが困難な高齢の方がいる世帯を中心に、計51世帯へ生活物資を提供しました。


真剣に糸を選ぶ刺し子さんたち

大槌復興刺し子プロジェクト　→ P30〜

刺し子事業を通じ1,180万円の収入を得られました

今年は41名の刺し子さんが活動に参加。刺し子事業を通じた収入は約1,180万円に。刺し子さんには工賃として、約230万円をお支払いすることができました。


施設の前で記念撮影、大切な思い出に

啓発事業　→ P32〜

スタディツアーに20名が参加、ウガンダの元子ども兵の夢を聞きました

ツアーでは、元子ども兵が自身の夢を語るドリームプランプレゼンテーションを開催。参加者の皆さんは、それぞれが語る夢に、熱心に耳を傾けました。



ロカプッス村の家畜銀行から貸し出された豚の餌を製作する村人と日本からの訪問者

クラスター爆弾（不発弾）が残る村で自然を守り、養蜂で収入を得るカムプアさん



ラオスのシエンクアン県ポンカム村に住むカムプアさん。多くの若者が都市へ働きにいくなか、村で農業をして生活することが好きだといいます。一方、農業をするための畑や田んぼでは、数十発のクラスター爆弾（不発弾）が見つかるなど、とても安全とはいえない状況です。養蜂は地面に触れることも少ないため被害にあうリスクが低く、より安全に働くことができます。

事業2年目には村で一番多い48kgの蜂蜜を収穫し28.6kgを販売、3万円の収入を得ることができました。

カムプアさんは「これからも養蜂を続け、また養蜂が広がることで村人たちの収入が向上するとともに、村の自然を守っていきたい」と話してくれました。

国際協力事業 アジア

2019 → 2020 ASIA REGION PROJECT CAMBODIA LAOS

アジアでは、カンボジアとラオスの2か国で、地雷・不発弾撤去を進めるとともに、地雷や不発弾の被害者を含めた障害者世帯やコミュニティへの生計向上や教育支援を実施してきました。カンボジアでは、引き続き機械チームの運営費を提供し、地雷撤去活動を進めることができました。また、地雷埋設地域の2村において、村人たちの「自立」と「自治」を目指した村落開発支援を実施し、モデルファームの建設、ファーマーズ・マーケットでの販売支援、家畜銀行の運営などの活動をしました。バッタンバン州カムリエン郡の地雷被害者などの障害者100世帯への生計向上支援は、3年目の活動を実施しました。一方、ラオスでは、シエンクアン県において、不発弾汚染地域の2村を対象にした養蜂事業を完了しました。



［ カンボジア事務所 ］
理事・アジア事業マネージャー
カンボジア事務所長
江角 泰

課題と展望　コロナ禍の状況を、柔軟な判断で乗り越えたい

カンボジアでは、2020年3月に新型コロナウイルスの影響でタイ国境が閉鎖され、国の経済や子どもたちへの教育にも影響が出ています。出稼ぎに行くことができなくなった村人たちは、収入がなくなり、厳しい生活を強いられている状況です。家畜の貸出を希望する世帯が増えていることで、飼育に必要な家畜小屋などの資機材を提供するための資金がさらに必要となっています。また、3月から公立の学校は閉鎖されたままで、家庭やオンラインでの授業が実施されていますが、通常の教育はできていません。ラオスの養蜂事業も、新型コロナウイルスの影響で観光客がいなくなり、養蜂センターでの蜂蜜の販売は難しい状況になっています。このため、観光客だけでなく、現地の人を対象にした蜂蜜を使った商品開発や販売支援をしていく予定です。

1 ［ カンボジア ］ 地雷埋設地域の脆弱な障害者家族への生計向上支援プロジェクト

事業の目的	地雷埋設地域に住む 障害者の生計向上	事業地域	カンボジア/バッタンバン州
受益者数(累計)	カムリエン郡105世帯 (JICA草の根パートナー事業100世帯)	事業実施期間	2017年4月~2020年12月
受益者カテゴリー	地雷埋設地域に住む貧困層の地雷被害者などの紛争被害者を含む障害者家族		



1

収入源の多様化で、収支のバランスを整える

バッタンバン州カムリエン郡に住む障害者100世帯を対象にした生計向上支援は、事業3年目の活動を実施しました。グローバル経済のリスクとお金に関するワークショップを開催し、理解度テストで9割以上が内容を理解しています。

毎月2種類の野菜栽培訓練と家畜銀行では、牛、やぎ、鶏、ハリナシミツバチの飼育訓練を3年目の飼育対象世帯へ実施しました。3年目終了時点で、ヤギの対象94世帯で平均1,240円/月、鶏の対象90世帯では平均165円/月の収入が確認されました。これは事業終了時に目標としている月の平均収入4,200円の33.35%にあたります。牛は17世帯への貸し出し、ハリナシミツバチは4世帯で収入につながっています。



2



3

1 家畜銀行から貸し出された牛を飼育する受益者。
2 ワークショップで農薬のリスクを学ぶ村人たちの様子。
3 病気になった鶏の治療法を農業専門家から学ぶ受益者。

2 ［ カンボジア ］ 地雷埋設地域村落開発支援プロジェクト

事業の目的	地雷埋設地域の貧困削減。地雷被害者や、元子ども兵、 小型武器の被害者を含む戦争被害者が、自立して生活できるようにサポートを するとともに、新たな地雷・不発弾事故を防止すること		
事業地域	カンボジア/バッタンバン州	受益者数(累計)	約400世帯
受益者カテゴリー	地雷埋設地域に住む貧困層の村人 地雷被害者などの紛争被害者など	事業実施期間	2006年10月~継続中



1



2



3

家畜飼育と野菜栽培によって、生計向上を目指す

ロカブッス村では、これまでに家畜銀行から牛、ヤギ、豚、鶏、アヒルを46世帯へ貸し出すことができました。合計76万円の収入につながっています。また、村のモデルファームでは貧困層4世帯が野菜の栽培や家畜飼育をして生活し、ファーマーズ・マーケットで農産物の販売支援をしました。プレア・プット村では、10世帯がヤギの飼育によって合計22万円の収入を得て、また8世帯については養鶏で16,000円の収入になりました。さらに、アクセスが悪いため学校へ通えない小学生のために授業の支援を提供しました。サムロン・チェイ村では、これまでに牛銀行で5世帯へ雌牛を貸し出し、合計85,000円の収入につながっています。

1 ロカブッス村のファーアマーズ・マーケットで、オーガニック野菜を販売する様子。
2 ロカブッス村のモデル・ファームに、空芯菜を買いにきた村の女の子。
3 ロカブッス村、プレア・プット村で養鶏をする村人たちが薬草の発酵液をつくる訓練の様子。

3 ［ カンボジア ］ 地雷撤去支援プロジェクト

事業の目的	地雷による脅威を削減することで、地雷被害を受けた カンボジアの農村地域の社会経済復興に寄与する		
事業地域	カンボジア / 北西部地域	受益者数(累計)	約 23,844 名、5,658 世帯
受益者カテゴリー	地雷原と地雷原周辺に住む村人	事業実施期間	2001 年～継続中



1



2

灌木除去機（ボブキャット）の活用で、効率的かつ迅速に地雷を撤去

カンボジアでは、2019 年 4 月から 2020 年 3 月まで地雷撤去活動ができるように灌木を除去する機械チームの運営費を、提携する地雷撤去団体 MAG へ提供しました。カンボジアのなかでも最も広い面積の地雷原が残されているバッタンバン州サムロート郡で、機械チームが操縦する「ボブキャット」という灌木除去機を展開しました。地雷探知犬チームと一緒に活動することで、12 発の危険物を処理し、東京ドーム 11.3 個分に当たる 530,613 ㎡の土地を安全にすることができました。この機械チームの活動によって、より効率的かつ迅速に地雷撤去を進めることが可能となり、2,167 世帯（8,658 名）に安全になった土地を提供することができました。

1 遠隔操作で動く灌木除去機ボブキャット。
2 灌木除去機で草木を除去した後に地雷を探知する地雷探知犬。

4 ［ ラオス ］ 産学民連携による持続可能な森林保全のための自然共生型産業の普及活動
ラオス不発弾汚染地域における養蜂の技術向上と普及を目指した“farm miel”プロジェクト

事業の目的	不発弾汚染地域でも安全に活動ができ、森林を保全し、自然と共生しながら、 直接的な森林利用の代替となる自然資源を活用した産業を確立する		
事業地域	ラオス / シエンクアン県	受益者数(累計)	67 世帯
受益者カテゴリー	不発弾汚染地域に生活する住民	事業実施期間	2017 年 10 月～ 2019 年 9 月



1

養蜂で森を守り、収入も向上

事業 2 年目に対象となるポンカム村とムアン村で、合計 815kg の蜂蜜を収穫できました。2 年目の収量は、事業開始前の年間収量の 302kg と比較すると 270% の増加率でした。養蜂に取り組む世帯数は 66 世帯中 58 世帯で蜂蜜を収穫することができ、目標としていた 60 世帯の 97%、事業開始前と比べ 193% の増加率となりました。収入面では、二つの村をあわせて 44 万円の収入となり、各世帯の平均収入は 6,700 円で、2 年目の目標値である 1 万円の 65% でした。また、各村で養蜂組合が組織され、森林保全や環境に関する理解度の向上を目指したワークショップを実施。養蜂に取り組む全世帯数の 6 割以上が、環境への理解度を向上していました。



2



3

1 ムアン村での環境教育ワークショップを実施したときの様子。
2 採蜜された蜂蜜。
3 製品化されたシエンクアンの森の蜂蜜。



紛争下のコンゴ民主共和国で働く現地職員たち

\ アフリカ事業 - ウガンダ・活動トピック /

「このチャンスを掴んで、人生を変えたいです」
南スーダン難民の女性が抱く、将来の希望



南スーダンの紛争で夫が軍に拘束され、ウガンダに逃れても厳しい生活を送っていた南スーダン難民のクリスティンさん(仮名)。

当会が実施する編み物の技術訓練を受けて、12月に難民居住区内に編み物店を開業しました。「今は難民として他の援助機関から食糧支援を受け取っていますが、それはいつか終わるものです。だから、私はこれから身につけた編み物の技術で収入を得ることが重要なんです。このチャンスを掴んで、人生を変えたいです。まずは一人目のお客さんに自分の商品を買ってもらえると、自分の技術を多くの人に知ってもらえるので、将来的にたくさんのお客さんに来てもらえると思います」と、将来に希望を抱く彼女の言葉から自立のマインドを感じました。

国際協力事業 アフリカ

2019 → 2020 AFRICA REGION PROJECT UGANDA CONGO BURUNDI

ウガンダでは元子ども兵と最貧困層の方々への社会復帰支援をはじめ、過去に支援した元子ども兵の後追い調査を行いました。さらに、同国の南スーダン難民と近隣住民を対象に、自立支援と緊急支援物資を配布しました。コンゴ東部では、紛争被害にあった女性などに養蜂技術訓練を行ったほか、元子ども兵や孤児の受け入れ世帯に家畜飼育の研修を行い、それによる販売収益で学用品を購入するなどの成果も見えてきています。同国中部では、支援によって紛争被害にあった女性がジュース・石鹸作り、洋裁により収入が得られるようになりました。ブルンジでは、社会的弱者の自立支援を行ったほか、過去に支援した養蜂・窯業協同組合のフォローアップ、国際移住機関と協働での帰還民や国内避難民などの収入向上支援を行いました。



理事長
海外事業部長
小川 真吾

課題と展望　どのような環境でも、真の自立をあきらめない

ウガンダでは、援助慣れによる南スーダン難民の自立マインドの低下が懸念されます。自立の意味と意義を理解してもらえるよう対象者に働きかけ続けるとともに、援助する側も対象者の自立の道を閉ざさないように十分配慮していく必要があります。

コンゴでは、治安悪化のため生産者協同組合の運営が困難な状況に陥り、治安回復後のフォローアップの強化が必要です。また、洋裁技術を習得した紛争被害女性たちが、実際に洋裁店を開設し収入が得られるようにフォローアップしていくことが今後の課題です。

ブルンジでは、2020年の大統領選挙による影響が懸念されますが、2019年度に技術を習得した受益者が持続的に収入を得られるようにフォローアップをしていく必要があります。

2020年3月以降は新型コロナウイルスの影響により、上記3ヶ国でも社会経済活動に甚大な影響が出ています。事業実施にも影響を及ぼしかねないため、敏速かつ相当量の追加支援の検討が必要です。

1 ［ブルンジ］農村部コミュニティにおける社会的弱者（EVIs）世帯の自立と自治支援プロジェクト

事業の目的	社会的弱者が農村コミュニティ内で、周囲とのつながりを強化し、基本的ニーズを満たした生活ができる環境を整えること		
事業地域	ブルンジ / ムランビア県、キガンダ郡	受益者数	88 世帯（約 400 名）
事業実施期間	2018 年 4 月～2021 年 3 月		
受益者カテゴリー	社会的弱者（シングルマザー、ストリートチルドレン、最貧困層住民）		



困難にくじけず、自立と自治を目指して

対象地域において、新たに 48 名に養蜂・養豚の技術訓練を実施。最終試験にも合格し、収入を得るために必要な技術と知識を習得しました。また、2018 年度に技術訓練を受けた洋裁・ヘアドレッシングの対象者 40 名は、グループに分かれて開業しました。スタッフによる技術指導や助言なども受けながら、対象者は様々な困難に直面しつつも、徐々に認知度を高めながら顧客をつかみ、収入を得ることが出来ています。加えて、2018 年度に続いて対象者が訓練に集中できるよう生活支援や個別カウンセリングを実施したほか、コミュニティワークや豪雨被害を受けた近隣住民の住居の修復支援を実施し、対象者間の関係性を強化することが出来ました。





1 養豚訓練期間中に産まれた子豚を抱く対象者。　2 コミュニティワークの一環で屋根瓦を運搬する対象者。
3 開業した美容室でヘアカットをする対象者。

2 ［ブルンジ］帰還民・国内避難民・ホストコミュニティの能力強化を通したコミュニティレジリエンス促進プロジェクト

事業の目的	対象地域において、対象者の収入機会の増加とビジネスの能力を向上するとともに、帰還民・国内避難民・ホストコミュニティ住民の社会的結束を強化すること		
事業地域	ブルンジ / マカンバ県、ニャンザラック郡	受益者数（累計）	210 名
受益者カテゴリー	帰還民、国内避難民、ホストコミュニティ最貧困層住民	事業実施期間	2019 年 5 月～2020 年 3 月

国際移住機関（IOM）と協働し、138 名に対して、石鹸作り・ヘアドレッシング・木工大工・レストラン・家畜飼育・小売業に必要な知識・技術訓練を行い、各々グループで開業しました。また、新たに追加された計 210 名が、学んだ技術を生かしてクイックインパクトプロジェクト（寄宿学校・脆弱な人々への食料品の調達・配布、等高線壕の掘削・耕作・浸水対策の土嚢袋作り、石鹸の製造・配布、生徒のヘアカット、脆弱な人々への食事の提供、学校用家具の製作）を実施し、22,650 名の住民が恩恵を受け、対象者間や住民との関係が強化されました。



3 ［ブルンジ］紛争被害者及び最貧困層住民の能力開発を通したコミュニティーレジリエンス向上プロジェクト フェーズ 2～生産者協同組合の基盤整備支援～

事業の目的	対象地域において、生産者協同組合を設立した紛争被害者及び最貧困層が組合運営の能力を向上し、自律的に収入を確保し、財政基盤を整えること		
事業地域	ブルンジ / ムランビア県、キガンダ郡	事業実施期間	2018 年 4 月～2020 年 3 月
受益者数（累計）	約 600 名（内訳：①紛争被害者及び最貧困層住民 98 名及びその同居家族約 500 名）		
受益者カテゴリー	紛争被害者及び最貧困層住民		

2015 年から 3 年間実施した事業のフォローアップとして、事業終了時に独立した養蜂・窯業生産者協同組合のビジネス計画に基づき、より収入が安定的に得られるよう資金面の追加支援を行いました。養蜂組合は、組合内の問題により収入は不十分でしたが、幹部の再選出を通して組合を再建できました。窯業組合は、組合員の関係性も良く、収入が得られています。各組合とも課題はあるものの、組合運営の能力は向上しています。

4 ［ コンゴ ］紛争の影響を受けた最脆弱層女性に対するレジリエンス向上支援プロジェクト

事業の目的	対象者が新たな収入源を確保・維持し、生計を向上するとともに、 ソーシャルキャピタルを増大し、リスクや困難に対するレジリエンスを向上すること		
事業地域	コンゴ / 中央カサイ州、 カナンガ市	事業実施期間	2019 年 4 月～2020 年 3 月
受益者数(累計)	直接受益者：260 名、間接受益者：直接受益者の家族 1,778 名		
受益者カテゴリー	紛争被害女性（国内避難民、寡婦、孤児、最貧困層女性）		


1


2

グループでビジネスができるよう、協力体制を強化

直接受益者を対象に、パイナップルジュース作り、石鹸作りの生産性向上・販売促進支援、洋裁の技術訓練・開業支援を実施。パイナップルジュース作りと石鹸作りグループの全員（計 200 名）が、各々得た技術を活かした商品販売による収益を向上し、基本的ニーズを満たして安定した収入源の維持が出来ました。洋裁グループは、半数の 30 名が洋裁店を開業して基本的ニーズを満たすだけの収入を確保でき、残り 30 名は技術の習得が出来ています。加えて、各グループ内外の協力体制を強化し、グループビジネスの運営方法の指導、法的支援を実施しました。しかし、新型コロナウイルス（ロックダウン）の影響で 3 月以降は収入が極端に減少しています。

1 グループビジネスの運営方法についてのリーダー研修の様子。
2 パイナップルジュースの生産に励む女性たち。

5 ［ コンゴ ］子どもの徴兵予防プロジェクト

事業の目的	紛争下で暮らす元子ども兵及び孤児の受け入れ家族が収入源を確保し、 子どもの徴兵を予防すること		
事業地域	コンゴ / 南キブ州、 カヘレ行政区、カロンゲ区域	受益者数(累計)	25 世帯（約 150 名）
受益者カテゴリー	元子ども兵及び 孤児の受け入れ世帯	事業実施期間	2019 年 4 月～2020 年 3 月


1


2

家畜の飼育によって、子どもの徴兵を予防

対象世帯の収入源確保を目指し、家畜飼育の技術指導をしました。家畜を提供した全世帯の８割で飼育と繁殖が順調に進み、モルモットの販売収益で学用品を購入するなどの成果も見え始めています。また、これまでは炭や農作物を遠方まで 1～2日かけて運ぶ重労働でしか現金収入を得られなかった対象者（特にシングルマザー）が、「これまでは小さな子どもを家に置いて遠出しなければいけなかったが、今は家の周りでヤギの世話をしながら、子どもの面倒を見ることもできるようになった」という声も聞かれました。家畜飼育は家族全員が協力しながら、（離れずに）行うことができるので、武装グループに襲われたり、徴兵されるリスクも減少しています。


3

1 家畜飼育研修の様子。　2 ヤギの繁殖に成功させた家族。
3 家族でヤギの面倒を見る最貧困層の家族。

6 ［ コンゴ ］紛争下で生きる最脆弱層世帯の初等教育支援および養蜂ビジネス企業支援プロジェクト

事業の目的	紛争下で暮らす最脆弱層が養蜂技術を習得し、 養蜂ビジネスを起業することで収入源を確保すること及び、 最脆弱層世帯の子どもたち（元子ども兵及び孤児）が初等教育の機会を得ること		
事業地域	コンゴ / 南キブ州、 カヘレ行政区、カロンゲ区域	事業実施期間	2019 年 4 月～2020 年 3 月
受益者数（累計）	最脆弱層 30 世帯、最脆弱層世帯の子ども 250 名		
受益者カテゴリー	最脆弱層（主に寡婦、国内避難民、性的暴力を受けた女性、最貧困層）、 最脆弱世帯の子ども（孤児及び元子ども兵）		

対象者に養蜂の技術訓練を行い、養蜂ビジネスを開始するための技術指導や備品の供与、養蜂場の整備などの支援を実施。全員が技術を習得し、それぞれの居住地近くに養蜂場 30 カ所の整備、蜂蜜の収穫後に加工を行うための資機材の調達も完了しました。

また、同地域で初等教育から取り残された孤児や元子ども兵に、初等教育を受けるために必要な学業支援を実施。全員が地元の小学校に通い、適切な就学状況を整えることができました。



7 ［コンゴ］紛争被害女性の生計向上支援フォローアッププロジェクト

事業の目的	対象者が加盟する生産者協同組合の乳製品販売の生産性が向上し、 対象者の生計が向上すること		
事業地域	コンゴ / 南キブ州、 ウビラ行政区、イタラ区域	事業実施期間	2019 年 4 月～2020 年 3 月
受益者数（累計）	250 名		
受益者カテゴリー	乳製品の製造販売を行う協同組合員 （紛争の影響を受けた脆弱層（紛争被害女性、最貧困層））		

乳製品の販売促進のため、生産技術、組合管理の補完研修、資材の供与を行いました。治安悪化が続き、想定していた研修の十分な実施は困難でしたが、定期的にスタッフが訪問し、生産に必要な材料の提供、治安悪化により収入が得られない時期の現金での生活支援を行い、対象者は最低限の生活を維持できた一方、生産活動が停滞しているため、今後、治安回復後にフォローアップを強化していく必要があります。

8 ［ウガンダ］元子ども兵社会復帰支援プロジェクト

事業の目的	元子ども兵が社会復帰するために必要な能力を身につけ、経済的に自立するとともに 地域住民との関係を改善しながらコミュニティで安心して暮らせるようになること		
事業地域	ウガンダ / 北部地域	受益者数（累計）	1,489 名 （内、元子ども兵は 227 名）
受益者カテゴリー	元子ども兵及びその家族、 最貧困層住民	事業実施期間	2005 年 5 月～継続中







手に職をつけ収入を得るとともに、地域社会にも貢献

元子ども兵 19 名を含め 42 名の第 10 期生を受け入れ、洋裁・木工大工の訓練や基礎教育による能力向上支援、伝統ダンス等による心理社会支援を行いました。また訓練期間中、受益者とその家族が医（衣）・食・住の人間としての基本的ニーズを満たして訓練に集中できるように支援を行いました。

また、元子ども兵 16 名を含め第 9 期生 30 名は、運営する洋裁・木工大工店などで平均月収が約 6,200 円と同地域の住民平均より高く、基本的ニーズを満たす収入を得ることができるようになっています。また地域住民との社会的な関係性も向上し問題なく生活できるようになり、63%の受益者が住民へ習得した技術を教えるなど地域に貢献しています。

1 洋裁の訓練を受ける 10 期生。　2 講師から木工を学ぶ 10 期生。
3 アチョリの伝統ダンスを踊る訓練生。

9 ［ ウガンダ ］元子ども兵社会復帰支援プロジェクトにおける長期的インパクト評価事業

事業の目的	当会の支援により社会復帰した元子ども兵の現状を調査することで、社会復帰プロジェクトの長期的なインパクトを評価・分析すること及び、それにより対象者（地域）の自立と自治を促進するためのより効果的な支援アプローチを模索すること		
事業地域	ウガンダ / 北部地域	受益者数(累計)	73 名（第 4 期生 - 6 期生）
受益者カテゴリー	当会での社会復帰支援を完了した元子ども兵	事業実施期間	2019 年 4 月～2020 年 3 月

2008～2014 年に当会の社会復帰支援を受けて自立した元子ども兵 73 名を対象に、現在の経済状況、資産、社会関係性などを量的・質的に調査しました。例えば、強制結婚で子どもを出産して戻ってきた元少女兵が自分の子どもを学校に通わせ続けるなど、私たちの施設に受け入れた約 12 年前の絶望的な状況から、信じられないほどのレジリエンス（適応能力）を示していました。

一方で、リスクに晒され、生活や生存の危機に直面した卒業生もいるため、フォローアップを行っています。調査を通して、元子ども兵が長期的に安定した生活や、ウェルビーイング（生きがいのある暮らし）の維持に重要な要因、また、レジリエンスが高まる仕組みの分析に必要なデータが得られました。



10 ［ ウガンダ］畜産支援による酪農組合開発事業（第 2 フェーズ）後方支援事業

事業の目的	酪農技術の普及、小規模農家の手頃な金融サービスへのアクセス強化、小規模農家の市場へのアクセス促進、栄養改善		
事業地域	ウガンダ / グル県、オモロ県	受益者数(累計)	小規模農家 74 世帯
受益者カテゴリー	貧困層	事業実施期間	2019 年 4月～2020 年 3月

ウガンダ北部地域の復興及び住民の貧困削減に向けて、公益財団法人日本国際協力財団が畜産支援事業を実施。同財団により第 2 フェーズでは現地の農家による酪農組合の設立を目指してグループの形成や技術研修が開始されました。パイロット事業（第 1 フェーズ）でマイクロリージングにより乳牛を入手した小規模農家へのフォローアップも実施され、当会はこれらの活動の後方支援を行いました。

11 ［ウガンダ］南スーダン難民居住区及びホストコミュニティにおける自立支援プロジェクト

事業の目的	難民居住区の南スーダン難民及びホストコミュニティの最貧困層が、職業訓練により必要な能力を身につけ経済的に自立すること		
事業地域	ウガンダ / アジュマニ県 南スーダン難民居住区	受益者数(累計)	南スーダン難民 61 名、ホストコミュニティ住民 47 名
受益者カテゴリー	南スーダン難民、ホストコミュニティ最貧困層住民	事業実施期間	2018 年 2 月～継続中



1

職業訓練によって、経済的自立を促進

南スーダン難民と難民を受け入れる地域住民から第 2 期生 68 名を受け入れ、難民居住区で技術訓練を行いました。これにより洋裁、編物、木工大工、レンガ積み工の 4 分野でそれぞれ技術を身につけることができました。また訓練に集中できるよう訓練施設での給食提供、および生活用品のサポートも行いました。その後、受益者が開業に必要な道具等を受け取り、当会が建設した編物店などの店舗や、建設現場において仕事を開始し、64 名が収入を得ることができました。

また、訓練を修了した第 1 期生 40 名に対して、洋裁や木工大工の技術を使って働く受益者の貯蓄グループの形成支援、ビジネス運営の助言等のフォローアップを行い、収入向上をサポートしました。



2



3

1 レンガ積みを学び建設現場で働く訓練生（第2期生）。 2 木工大工の技術を学びテーブルを制作する訓練生（第 2 期生）。
3 セーターの編み方を学ぶ訓練生（第 2 期生）。

12 ［ウガンダ］南スーダン難民居住区における PSNs に対するオーダーメイド型人道支援プロジェクト

事業の目的	対象世帯それぞれの状況と特性に応じて必要な物資またはサービスを供与することで、対象者が BHN（人間としての基本的ニーズ）を満たすこと		
事業地域	ウガンダ / アジュマニ県 南スーダン難民居住区	受益者数(累計)	51 世帯（181 名）
受益者カテゴリー	南スーダン難民	事業実施期間	2017 年 8 月～継続中


1


2


3

世帯のニーズに合わせた、生活物資を提供

南スーダンから逃れてきた難民の方たちが生活する難民居住区で、「特別なニーズを持つ人々（PSNs）」とされ、人間の基本的ニーズを満たして生活することがより困難な高齢の方がいる世帯を中心に、計 51 世帯を個別に訪問しました。これにより各世帯の細かいニーズを把握し、石鹸や蚊帳、水タンク、バケツ、石鹸、洗剤、生理用品、学用品、トウモロコシの粉、調理油など、それぞれの世帯のニーズに合わせた物資を提供しました。

1 生活物資を配布する様子。
2 提供した水タンクやバケツ。
3 物資を運ぶ受益者と当会職員。

13 ［ウガンダ］ウガンダにおける新型コロナウイルス対策支援事業

事業の目的	新型コロナウイルスの感染を予防するとともに、最脆弱層の人々の社会経済的ダメージを最小限に抑えること		
事業地域	ウガンダ / グル県、アムル県、アジュマニ県、モヨ県	事業実施期間	2020 年 3 月～継続中
受益者数(累計)	約 105,000 名		
受益者カテゴリー	難民、最脆弱層（高齢者、障害者、シングルペアレント、孤児、最貧困層、元子ども兵）、医療従事者、エッセンシャルワーカー、地域住民		


1


2

新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、緊急支援を実施

新型コロナウイルス感染予防活動のため、難民居住区等に 700ヶ所、手洗い設備を提供しました。また、手洗い方法やマスクの使用方法など、感染予防に関するポスターを 4 言語で 71,500 枚を作成し、医療施設・マーケット等に掲示・配布することで感染予防を促しています。そして、6 箇所の隔離施設にて生活物資や衛生用品を定期的に届けています。また経済活動の制限等が課されるなか、仕事や収入を失くした最脆弱層への生計支援活動として、高齢者や障害者等に生活物資の緊急支援を行いました。また、当会で洋裁の技術を身につけた元子ども兵・難民の方々へ布マスクの生産を依頼することで生計支援を行い、生産されたマスク 23,000 枚は、医療施設、刑務所、難民、最貧困層住民等へ配布して感染予防に活用しています。

1 隔離施設での生活物資の配布の様子。
2 経済活動の制限により収入源をなくした元子ども兵たちがマスクを生産している様子。







緊急支援・実績概要

※以下は、2020年8月時点の活動実績で、緊急支援は2020年12月まで実施予定です。

- ✓ 石鹸配布：64,387個
- ✓ 布マスクの製造・配布：34,000枚
- ✓ 食料・生活必需品：3,750人
- ✓ 手洗い設備設置：1,001箇所
- ✓ 手洗いチラシ・ポスター配布：71,500枚
- ✓ 上記含め街宣車での啓発：86,800人

【 緊急レポート 】新型コロナウイルス対策緊急支援プロジェクト

新型コロナウイルス感染症の世界的な流行が続くなか、私たちが活動するウガンダやコンゴ、ブルンジでも、感染拡大に伴う政府の感染予防策に基づき、運営する職業訓練校の閉鎖など様々な影響が出ています。これらの地域は、元々紛争の影響で多くの（避）難民や貧しい人々が劣悪な環境での生活を余儀なくされており、また医療体制や衛生管理についても不十分です。こうした弱い立場に置かれた人々は、感染予防の知識や、予防に必要な物資を買う経済的余裕もない状態です。特に難民居住区など、衛生環境が悪い人口密集地域での感染拡大は、取り返しのつかない事態を招くことになります。各国でも、国境閉鎖や移動・経済活動の制限など、感染予防のために社会経済活動を制限しています。しかしながら、同地域では労働者の大半が日払いや週払いの仕事で生計を立てており、政府の講じた措置に伴って多くの人々が失業または一時的に収入が絶たれるなどして、生活が圧迫されています。ウガンダでは、「ウイルスに殺される前に失業に殺される」といった会話が巷で囁かれ、政府への不満も高まりつつあります。経済的な困窮が、大規模なデモや暴動に発展することも危惧されているのです。感染リスクと社会経済的リスクの双方を同時に管理する必要がありますが、限られた現地政府の予算と人的資源だけでは、到底対応できる状況ではありません。こうした状況を踏まえて、私たちは新型コロナウイルス対策の緊急支援を実施することにしました。

緊急支援の実施にあたり、2020年4〜5月まで広くご支援のお願いを呼び掛け、おかげさまで、921名の方々から約2,446万円のご支援をいただくことができました。いただいたご支援によって、ウガンダ、コンゴ、ブルンジで、石鹸や簡易手洗い設備の提供、手洗い方法の啓発などの感染予防対策や最脆弱層への生計支援を実施しました。また、アフリカでも感染予防のためにマスクの需要が高まりましたが、使い捨てマスクは通常より値段が高く、貧困層の人々は容易に手に入れられません。そこで私たちは、ウガンダにおいて、当会の支援で洋裁技術を習得した元子ども兵の方々に布マスクの生産を依頼。マスクの生産によって元子ども兵の方々が収入を得られるとともに、マスクを必要とする人々へ配布することが目的です。これらのマスクは貧困層の人々をはじめ、陽性患者を受け入れる病院へも配布。医療従事者の方々にも大変喜んでいただき、その評判が広がっています。元子ども兵という過去を背負うばかりに、以前は周囲からの差別を受けたりすることもありましたが、今ではマスクの生産を通じて、社会にとってかけがえのない存在となっています。壮絶な過去を乗り越え、コロナ禍でもくじけないその姿に、私たちも元気をもらっています。新型コロナウイルスがもたらす影響はとても大きいですが、「一人ひとりは微力であっても、決して無力ではない」と信じ、引き続き、いま私たちに出来ることを続けてまいります。

「迅速な緊急支援によって、命と暮らしを守る。」
「微力でも無力ではない。いま、私たちに出来ることを。」

1 南スーダン難民居住区にて、設置した手洗い設備を利用する子どもたちの様子。 2 ウガンダの病院にて、製造したマスクと感染予防の啓発ポスターを配布。 3 テラ・ルネッサンスの職業訓練を終了した元子ども兵の方に、マスクの製造を依頼している様子。



新年の会にて。刺し子さんが集まると笑いが絶えません。

＼大槌復興刺し子プロジェクト・活動トピック／

二ツ谷恵子さんによる技術講習会
草木染め糸で手提げ袋を制作





毎年、刺し子さんたちが楽しみにしている、二ツ谷恵子さんによる技術講習会。今年も岐阜県高山市から大槌までお越しいただき、開催することができました。今年の講習会では、手提げ袋を製作。講習会は、刺し子さんが楽しんで学べるよう、二ツ谷さんがいつも創意工夫をしてくださいます。今年は、とても可愛く綺麗に巻かれた草木染め糸に、刺し子さん一同がときめきました。この草木染め糸を使用し、これまで教えていただいた、七宝、麻の葉、角青海波などの柄を刺してバッグを完成させます。縫製は、縫製ができる刺し子さんができない人の分まで担います。

二ツ谷さんが持参してくださる作品の数々からも、たくさんの学びがあります。作品を手に取り、積極的に質問をしながら技術を学び取ろうと、刺し子さんたちは毎回意欲的に講習会に臨んでいます。初めての講習会から４年。当時は手に汗を握るほどの緊張感でいっぱいだった刺し子さんたちですが、今では自信に溢れた様子で針を進める姿が印象的でした。

大槌復興刺し子プロジェクト

2019 → 2020 Otsuchi Sashiko Project JAPAN

大槌復興刺し子プロジェクトは、東日本大震災により甚大な被害を受けた岩手県大槌町にて、昔から日本に伝わる手仕事の一つである「刺し子」の商品企画・販売を通して、地元人材の雇用や作り手の皆さんの生きがい創出を目指しています。2019年度は、震災から9年目を迎える年でした。刺し子会やお茶っこ、講習会の開催などの活動を行うとともに、(株)中川政七商店によるコンサルティングを通して、大槌刺し子が目指すものや実現したい価値などを改めて見つめ直す年でもありました。今年、活動に参加した刺し子さんは、41名。刺し子事業を通じた収入は、約1,180万円。刺し子さんには工賃として、約230万円をお支払いすることができました。



［ 日本 岩手事務所 ］
理事・大槌復興
刺し子プロジェクト事業部長
政策提言担当
吉田 真衣

課題と展望

震災から10年に向けて、飛躍の一年へ

プロジェクト開始から９年目を迎え、長年携わってくださっている刺し子さんの間には、大槌復興刺し子プロジェクトもずいぶん定着しました。９年経ってなお、このように活動を続けることができることに感謝の気持ちでいっぱいです。おかげさまで、継続的にお取引をしてくださる会社も増え、活動初期の心のケアを中心とした活動から、よりビジネスの視点で考え、活動を展開していく必要がある場面も増えました。その点では、今年から(株)中川政七商店によるコンサルティングを受け始めたことは、プロジェクトにとっても新しいチャレンジとなりました。震災から10年目を迎える2020年度は、新しい大槌刺し子として飛躍する年にできるよう、引き続き、大槌刺し子一丸となってプロジェクトを推進していきたいと思います。

1 大槌復興刺し子プロジェクト

事業の目的	東日本大震災により、甚大な被害を受けた岩手県大槌町にて、東北の伝統技術である「刺し子」商品の制作、販売を通じて、継続的な地元人材の雇用と、作り手の女性たちの収入・生き甲斐を創出する。また、プロジェクトを通じて、復興、地域創生といった町の課題解決に寄与する		
事業地域	日本 / 岩手県	受益者数(累計)	246名
受益者カテゴリー	東日本大震災の被災地域の女性	事業実施期間	2011年6月～継続中


1

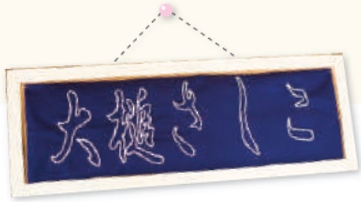
企業との共同商品で、刺し子の魅力を発信

2013年から続く、(株)良品計画さまとの共同制作商品。これまで、大槌町の豊かな自然をモチーフにした商品を制作、国内外の無印良品店舗にて販売をしてきました。2019年度は、大槌の「うみ」をテーマにした、ストラップ、コインケース、パスケース、フラットケースの4型に、それぞれ「なみ」、「しま」の2つの模様を刺し子で表現しました。今回も、企画段階から刺し子さんに参加してもらい商品を制作。完成した商品は、日本国内の良品計画さま大型店舗で販売されました。この企画を通して、たくさんの方々に、刺し子や、手仕事の魅力、そして東北についてを知っていただく機会となりました。
(※この商品の販売は終了しています。)


2


3

1 良品計画さまの販売商品を作る刺し子さんの手元。
2 3 良品計画大型店舗で発売されたストラップと三角ポーチ。











沢山の訪問者で、活気のある夏に

2019年3月、三陸鉄道が全線開通したことを受け、今夏はたくさんのお客さまが大槌まで足を運んでくださいました。神奈川県横浜市でカフェ「陽のあたる道」を営んでおられる犬飼さんご夫妻。プロジェクトを始めた頃から、お店で刺し子商品の販売をしてくださっています。8月に三陸鉄道を利用して大槌までお越しくださり、バディーズも念願かなってようやくお会いすることができました。

また、大槌訪問が恒例となっている「大槌プロジェクト」の皆さん。恒例のくるみボタン作りを体験。今年は刺し子さんのお孫さんも参加しての交流の場となりました。その他にも奈良県から毎年訪れてくださる方、長野県軽井沢市からも夏休みを利用して訪れてくださる方など、賑やかな夏となりました。

活動の詳細はこちら ▶▶▶ 大槌刺し子 検索 https://sashiko.jp/



第 86 回テラ・カフェ「ブルンジ駐在員古岡のぶっちゃけトーク」の様子（2019 年 6 月 19 日実施）。
ブルンジ駐在の古岡の一時帰国にあわせ開催。普段では聞けない話題に、大盛況でした。

元子ども兵が語る夢、ウガンダへのスタディツアーを実施



ウガンダの事業地を訪れ、活動の見学、現地の方々との交流や自然体験を目的にしたスタディツアー「ドリームプランプレゼンテーション in ウガンダ 2019 ～ ウガンダの元子ども兵と夢を語り合う旅～（旅行企画・実施エアーワールド株式会社）」を呼びかけ、2019 年 8 月 17 日～25 日、小学生・中学生を含む 20 名の参加者とともに、ウガンダを訪問しました。21 日には当会の施設に通う生徒（元子ども兵）や卒業生が自身の夢を語るドリームプランプレゼンテーションを開催。それぞれが語る夢に参加者が熱心に耳を傾け、「夢を持てることの素晴らしさを感じた」「またいつか夢の続きを聞きたい」など、様々な感想をいただきました。

啓発事業

2019 → 2020 AWARENESS RAISING PROJECT JAPAN

海外事業地での国際協力、政策提言とともにテラ・ルネッサンスの活動の柱になっているのが、国内で取り組む「啓発活動」です。これまで、アウェアネス・レイジング（啓発）チームと、パブリック・リレーションズ（広報・資金調達）チームに分かれ、それぞれに活動してきました。

2019年度には、これまで以上に啓発的な視点に立脚したファンドレイジングを展開するため、上記2チームを統合。テラ・ルネッサンスのビジョンの実現に向けて、社会変革の担い手を増やしたいという想いのもと、講演やイベントをはじめ、めぐるプロジェクトにおける回収系支援や、寄付や会員など、活動参画のためのさまざまな方法を広く呼びかけてきました。



［ 日本 京都事務局 ］
事務局次長
啓発事業部長
小田 起世和

課題と展望

支援者の皆さまとの関係性を丁寧に構築したい

2019 年度は、特に寄付や会員としてご支援いただくための活動に注力しました。通常の寄付については、夏と冬に期間を限定した募金キャンペーンを実施するなどし、個人・法人あわせて 1,184 件 / 約 5,790 万円のご支援をいただきました。また、個人を対象としたファンクラブ会員では 256 名、企業・団体を対象とした法人サポーターでは 66 社に、新たに会員としてお申込みいただくなど、着実に支援の数が増加しています。一方で、その場かぎりの支援（関係）に終始するのではなく、継続的に活動を応援していただけるように、ご支援いただける方々それぞれに適した方法を検討し、その関係性を丁寧に構築していくことが必要だと考えています。また、2021 年には団体設立 20 周年を迎えることから、これまでに取り組んできた啓発活動のなかでも、特に講演におけるソーシャルインパクト（社会的影響）の成果を測るべく、さまざまな方法で評価・調査を進めたいと考えています。

啓発事業のプロジェクト概要と成果



めぐるプロジェクト・2019 年度協力者数：8,068 名・団体

古着、古本、書き損じはがき、不要になった携帯電話、古紙、アルミホイールの回収の呼びかけを行いました。結果、8,068 名・団体の方から 3,115,605 円の支援を同事業を通じ集めることができました。また、回収強化期間を例年よりも短い期間で実施しましたが、各種 SNS、メールマガジン等での広報を強化したことにより、書き損じはがきで 422,920 円、古本で 155,136 円の活動資金を調達することができました。



SDGs 推進のためのネットワークを始動

JICA NGO 等提案型プログラムを受託し、「京都発！ SDGs 国際協力アクター連携強化プログラム（通称：京都 SDGs ラボ）」を 2019 年 12 月から実施しています。SDGs とは国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」に記載された 17 の開発目標です。SDGs の推進にあたり、企業や自治体など多様な団体が取り組みを進めています。当プログラムはそんな団体同士のパートナーシップを促進し、SDGs 達成に向けた取り組みを加速させることが目的です。2019 年度内に予定していた企画は新型コロナウイルス感染症の拡大により開催が見送りになりましたが、2020 年 4 月からオンラインでの情報発信、イベント企画を進めています。

＼啓発事業・活動トピック／

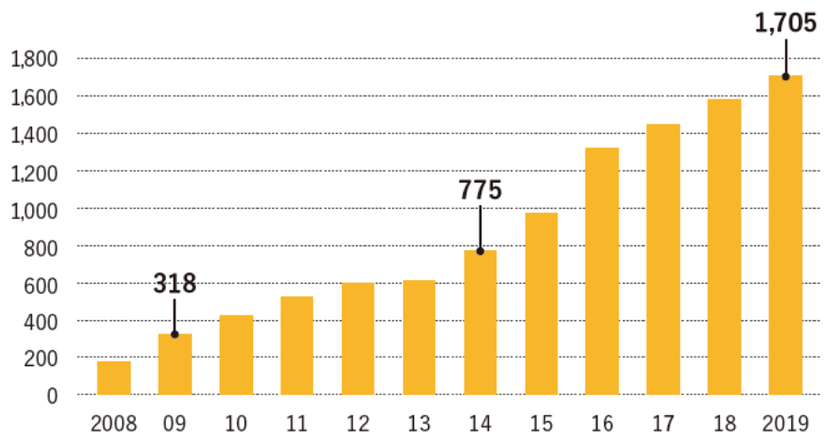
ファンクラブ会員が 1,700 名を突破
継続的なご支援によって、力強く活動を推進

毎月の寄付で活動を応援いただくファンクラブ会員が、2019 年度末に 1,705 名になりました。継続的なご支援をいただけることによって、ビジョンの実現にむけて計画的かつ安定的に活動することができます。また、災害時などでは迅速かつ柔軟に緊急支援を開始できることなどから、私たちは様々な方法でファンクラブ会員としてのご支援のお願いを呼びかけてきました。

そのような状況において、これまで「講演会への参加」を理由とした申込みが多かったですが、最近ではメールマガジンやブログ、SNS などをキッカケとしてご支援いただくことが増えてきました。コロナ禍において、対面コミュニケーションの機会が難しくなっていることから、引き続きオンラインを活用した関係構築にも注力していきたいと考えています。一部、ご支援いただく皆さまからのメッセージもご紹介させていただきます。

「微力ながら支援させていただきます。」「いつもメルマガやイベント等で活動について学んでおり、ささやかながら何かお手伝いできないかと思い、寄付に至りました。」「以前から、こういった活動に関心はあったものの、本当に自分の善意が届くのか心配で、踏み切れずにいました。私が毎日使っているスマホが紛争の要因であること、少額でも支援を始められることを知り、ファンクラブへ申込みます。」

●ファンクラブ会員の推移



講演実績

※順不同

企業・団体	株式会社FISソリューションズ / 株式会社ブルーム / ドラゴンキューブ株式会社 / 株式会社ビスタワークス研究所 株式会社宿力 / 金星ゴム工業株式会社 / 株式会社三井酢店 / 株式会社西井製作所 / RisingSword株式会社 I-Oウェルス・アドバイザーズ株式会社 / 京都武田病院 / 柏瀬眼科 一般社団法人地域経営推進センター / とちぎ青年経済人会議 / 一般財団法人富士通JAIMS 一般社団法人公益資本主義推進協議会大阪支部 / 日本液体清澄化技術工業会 公益社団法人生命保険ファイナンシャル・アドバイザー協会埼玉県協会 / 一般社団法人広島青年会議所 / 輝いた広島創造会議 ジャパンスピリット協会発足準備会 / 関西国際保健勉強会ぽちぽちの会 / 千葉県倫理法人会 / NPO法人ISL やさしい未来ラボ / 室戸ジオパーク推進協議会 / 成田市倫理法人会 / しんらん交流館 / 寺子屋プロジェクト 秋田商工会議所運輸交通部会 / 公益財団法人五井平和財団 / NPO法人しゃらく / 尼崎ユネスコ協会 公益財団法人船井幸雄記念館 / コンゴの紛争と性暴力を考える会 / ワンワールドフェスティバル for youth JICA関西 / 公益財団法人京都地域創造基金 / 公益財団法人総合健康推進財団 高知ロータリークラブ / 京都洛東ロータリークラブ / 国際ロータリー第2570地区インターアクトクラブ 京都洛陽ライオンズクラブ / 京都紫明ライオンズクラブ 生長の家東京第一教化部 / 天理教青年会 / 天理教啓発委員会事務局 / 新潟県宗教者懇話会 / 立正佼成会佐渡教会 立正佼成会関東教区 / 立正佼成会豊田教会 / 立正佼成会西多摩教会 / 立正佼成会仙台教会 立正佼成会越後川口教会 / 立正佼成会関東教区 / 立正佼成会上尾教会 / 立正佼成会掛川教会 立正佼成会高松教会 / 立正佼成会佐渡教会 / 立正佼成会南多摩教会 ならコープ北エリア委員会 / 桃山台バスターミナル / 都市生活こうべ / 子育て応援くらぶ あっぷるてぃ〜 / コープ岸和田 福田コープ委員会 / 東淀川コープ委員会 / 塩屋コープ委員会 / コープサークルスマイルベル / 本山婦人会 長洲幼稚園PTA小集団学習グループミルキー / 安倉コープ委員会 / 京都生協東ブロック・北ブロック・両丹ブロック・ 伏見Aエリア会 / 大阪いずみ市民生協 / コープサークル二樹会 / 姫路南コープ委員会 / 園田小学校PTA人権学習あすなろ
教育機関	日本大学 / 法政大学 / 創価大学 / 横浜市立大学 / 都留文科大学 / 白鴎大学 / 名古屋市立大学 甲南女子大学 / 神戸大学 / 同志社大学 / 三重大学 / 京都産業大学 / 千里金蘭大学 / 常磐会学園大学 池坊短期大学 / 京都外国語大学 / 龍谷大学短期大学部 / 龍谷大学 / 京都女子大学 福島県立白河旭高校 / 神奈川県立横浜国際高校 / 京都府立すばる高校 / 京都府立福知山高校 立命館宇治高校 / 京都府立西舞鶴高校 / 京都教育大学附属高校 / 大阪府箕面東高校 / 大阪府立住吉高校 大阪府立北摂つばさ高校 / 京都府立桃山高校 / 岡山中学校・岡山高等学校 / きのくに国際高等専修学校 佐賀龍谷高等学校 / 神崎清明高校 京田辺市立大住中学校 / 宇治市立西小倉中学校 / 高島市立高島中学校 / 葛城市立白鳳中学校 池田市立北豊島中学校 / 枚方市立第三中学校 / 枚方市立さだ中学校 / 枚方市立招堤中学校 枚方市立津田中学校 / 門真市立門真はすはな中学校 / 泉大津市立誠風中学校 佐賀大学教育学部付属中学校 / 唐津市立佐志中学校 / 佐賀県致遠館中学校 京都市立元町小学校 / 京都市立松ヶ崎小学校 / 京都市立第三錦林小学校 もりかわコミュニティ・スクール学校運営協議会 / 小牧市教員組合青年部 / 杉水保育園
行　政	熊本県庁 / 人事院公務員研究所 / 沖縄県自治研修所 / 尼崎市役所 / 尼崎市教育委員会 尼崎市立花地域振興センター / 中野区 / 福知山市地域振興部人権推進室

●スタディツアー現地コーディネート（いずれもカンボジアで応対）
大阪府立佐野高等学校 / 東京母親会 / 平成31年度おきなわ国際協力人材育成事業共同企業体（おきなわ国際協力人材育成事業2019）

メディア掲載実績（重複を除く）

朝日新聞 / 読売新聞 / 岩手日報 / 中外日報 / 金光新聞 / 京都新聞 / 共同通信 / 佐賀新聞 / 長崎新聞 / 高知新聞 / 熊本新聞
中国新聞 / 岐阜新聞 / 静岡新聞 / 佐賀経済新聞 / 佐賀コミュニティラジオえびすFM / NHKラジオ / TBSラジオ
abemaTV / NHK / Netflix / フジテレビ / IBC岩手放送 / 岩手めんこいテレビ / The Japan News



＼ アドボカシー・活動トピック ／

支援プログラムを設立、国際会議の場に「南」の声を

テラ・ルネッサンスでは、政策提言活動の一つとして、小型武器の問題に取り組んでいます。2019年度は、武器貿易条約(ATT)締約国会議(CSP)に「南」の声を届けることを目的とした「Terra Renaissance Sponsorship Program」を設立しました。本プログラムでは、「南」のNGO・研究者が会議に参加し、発言の機会を得ることができるよう、CSP5が開催されたスイス・ジュネーブまでの渡航費、滞在費等を支援しました。この制度を通して、南アフリカとインドのNGO関係者がCSP5に参加し、それぞれの団体を代表して声明を述べるなど、精力的に活動を行いました。

各種イベントへの出展

2019.04.27	岡崎マルシェ
2019.05.17 - 07.16	東本願寺しんらん交流館パネル展示
2019.05.25	岡崎マルシェ
2019.06.08	持続可能な国際社会をつくるための SDGs実践者セミナー「紛争」と「難民」
2019.06.15	カラフルEXPO
2019.08.04	デニ・ムクウェゲ医師「女を修理する男」上映会 in 神戸
2019.08.31	H2Oサンタ NPOフェスティバル（写真：上）
2019.09.08	KBSラジオ 秋の One Day Special
2019.10.26	第13回「頑張らない」バドミントンチャリティー大会（写真：下）
2019.11.03	府民交流フェスタ in 京都府立植物園
2019.11.09	第7回 清水寺で世界を語る
2019.11.17	きょうとヒューマンフェスタ 2019
2019.11.30	つながろう北豊島！SDGsフェス！
2019.12.15	ワンワールドフェスティバル for youth 2019
2020.02.01 - 02.02	第27回 ワンワールドフェスティバル





ふるさと納税（寄附）を活用した海外への支援とともに、佐賀県への裨益を意識した活動を展開



豪雨災害への支援に、チャリティー講演会を開催

2019年8月末、九州北部豪雨により佐賀県内に甚大な被害が発生。スタッフが災害ボランティアとして現場に入りましたが、浸水した家屋も多く、すぐには日常生活に戻れない状態でした。復興の一助になればと考え、理事長の小川とアフリカ事業スタッフのトシャ・マギーによるチャリティー講演会を開催。海外において困難な状況の中で前を向く人々の姿をお伝えし、また集まった参加費は義援金とし、災害支援を実施する佐賀未来創造基金を通じて寄付しました。これからも、活動を支えてくださる佐賀の人々に対してできることを続けてまいります。

講演・イベントの定期開催から、認知拡大へ

2019年度は6ヶ所で講演を行いました。佐賀県立致遠館中学校の「職業人講話」という授業では、弊会の活動紹介だけではなく、NPOにおける仕事の魅力や、夢についての考え方などをお伝えしました。その際、佐賀新聞に取材いただき、地域に根ざした啓発活動の様子を県民の皆さまに広くお伝えすることができました。定期開催の「テラ・カフェ in 佐賀」では、昨年と同様に佐賀事務所スタッフだけでなく、京都事務局インターンによるイベントを開催。事業紹介や、活動への想いを伝え、佐賀県における国際協力イベントとしての魅力をより大きくし、認知拡大にも寄与しました。





1 2019年10月26日に開催したチャリティー講演会の様子。2 佐賀事業スタッフの島（左）と佐賀未来創造基金の山田さん（右）。
3 テラ・カフェ in 佐賀に登壇する京都事務局インターン。





＼ ふるさと納税（寄附）の活用・活動トピック ／

紛争被害女性の支援に、ふるさと納税（寄附）を活用

2019年度にふるさと納税でいただいたご寄附の一部は、コンゴ民主共和国の『紛争の影響を受けた最脆弱層女性に対するレジリエンス向上プロジェクト』（P.21参照）、『紛争下で生きる最脆弱世帯の初等教育支援および養蜂ビジネス起業支援プロジェクト』（P.22参照）に活用させていただきました。2018年度と比較してもご寄附いただく方が増え、届ける支援をより大きくすることができました。これからも、ふるさと納税が平和の大切さについて考えていただく機会となるように、佐賀県内での活動報告などの啓発活動を含めた、ふるさと納税事業をより活発に実施していきます。

1 洋裁の技術訓練を終えて、修了証書を手に喜ぶ女性たち。
2 養蜂の技術訓練にて、巣箱に根付いた蜜蜂の巣を採取する様子。

＼ ふるさと納税（寄附）・利用者の声 ／

＼ HAPPY ／



（支援者）
伊藤真衣子さん
（選ばれた返礼品）
有明海産の海苔

これまでふるさと納税の制度にあまり関心がなかったのですが、昨年テラ・ルネッサンスさんに寄附ができることを知り、初めてふるさと納税を利用しました。返礼品で届けていただいた「有明の風」という海苔はとても美味しくて、訪れたことのなかった佐賀県に興味を持つきっかけにもなりました。長年学習支援の仕事をしていることもあり、紛争地帯に生きる子ども達を支援されているテラ・ルネッサンスさんの活動を微力ながら応援できることは、自分自身の喜びにもなっています。これからも毎年続けていきたいです。



ふるさと納税（寄附）のお申込み・お問い合わせ

・ウェブ｜https://www.terra-r.jp/furusato_tax.html
・電　話｜075-741-8786（受付時間：月 - 金 , 10:30 - 18:00）

ご支援くださった企業・団体の皆さま

株式会社アイケイ

株式会社
エキスプレスマーケティング

株式会社 FISソリューションズ

株式会社王宮（道頓堀ホテル）

清水寺

外務省

株式会社キャリッジウェイ・
コンサルティング

京都地域創造基金

株式会社 Kurokawa
（フクサポ）

株式会社ゲットイット

国際移住機関(IOM)

独立行政法人
国際協力機構関西センター

UNDP
コンゴ民主共和国事務所

佐賀県
（ふるさと納税）

株式会社ザ・リード

松緑神道大和山

宗教法人松緑神道大和山

宗教法人真如苑

株式会社玉越

公益財団法人日本国際協力財団

環境と平和のNPOネットワーク『地球村』

株式会社バリューブックス
（キフ★ブック）

株式会社ピープルフォーカス・
コンサルティング

株式会社マーケティング
フルサポート

株式会社マジックランプ

株式会社みしまや

Rising Sword 株式会社

リタワークス株式会社

立正佼成会一食平和基金

株式会社アイ企画 / 愛東運輸株式会社 / 株式会社アイラ / 株式会社アウラ / アシヤシンゲツマツリノカイ / 有限会社アップライジング / アランフィニ / 有限会社イソ・コーポレーション / 株式会社ウチヤマホールディングス / 美し港倶楽部 / エグチホールディングス株式会社 / 税理士江黒清史事務所 / 株式会社エスグランド / 大塚実業株式会社 / 株式会社小原工業 / 社会福祉法人合掌苑 / 加藤貿易株式会社 / かみひとねっとわーく京都 / 頑張らないチャリティバドミントン大会実行委員会 / 京都生活協同組合 / 京都洛陽ライオンズクラブ / 株式会社栗本ホールディングス / 株式会社GLOBAL FLAT / 株式会社ケンモク / 興亜商事株式会社 / 株式会社コスモライン / 株式会社Co-Lab / 特定非営利活動法人コンフロントワールド / 三和パッキング工業株式会社 / 株式会社ジェイ教育システムズ / 株式会社ジェイック / 地雷ゼロ宮崎 / 株式会社新経営サービス / 株式会社シンワルプテック / 菅原汽船株式会社 / 株式会社ストラクス / 特定非営利活動法人青少年ワールドサポート21 / 生長の家東京第一教区栄える会 / 株式会社中京会計 伊藤圭太税理士事務所 / 株式会社銚子大洋自動車教習所 / 株式会社塚腰運送 / テラ・ルネッサンス後援会千葉 / TSC東海 / TSC東京 / テレコムクレジット株式会社 / 一般財団法人澄和 / 徳田印刷株式会社 / 有限会社 徳久 セブンイレブン佐野工業団地店 / ドラゴンキューブ株式会社 / 株式会社南海 / 株式会社西井製作所 / 株式会社ノア動物病院 / 株式会社VIAJERO / ひなぎく株式会社 / 株式会社ひなたぱっこ / 株式会社ホーリーツリー / 一般社団法人マインドフルリーダーシップインスティテュート / 株式会社丸忠 / 水戸ヤクルト販売株式会社 / 株式会社ユニバースプロダクツ / 株式会社ライフウィズ / 株式会社リコー リコー社会貢献クラブ・Free Will事務局 / 株式会社リブート / 弁護士法人 ロウタス法律事務所

※五十音順・敬称略　2019年度中に一定以上のご支援をいただいた法人・団体の皆さまを掲載しております。

テラ・ルネッサンス 団体概要

（2020年3月末日）

正式名称	特定非営利活動法人テラ・ルネッサンス	理事長	小川真吾
設立年	2001年（ 2005年 法人格取得、2014年認定NPO法人となる ）		
活動対象国	カンボジア王国 / ラオス人民民主共和国 / ウガンダ共和国 / コンゴ民主共和国 / ブルンジ共和国 / 日本		
海外・国内事務所	本部事務局（ 日本 京都府 ） 佐賀事務所（日本 佐賀県 ） 大槌事務所（ 日本 岩手県 ） カンボジア事務所（ カンボジア王国バッタンバン州 ） - フィールド事務所（バッタンバン州カムリエン郡） ラオス事務所（ ラオス人民民主共和国シエンクアン県 ） ウガンダ事務所（ ウガンダ共和国グル県 ） - フィールド事務所（アジュマニ県パギリニア難民居住区） コンゴ事務所（ コンゴ民主共和国南キブ州 ） - フィールド事務所（南キブ州ブカブ市カロンゲ、カサイ中央州カナンガ市） ブルンジ事務所（ ブルンジ共和国ブジュンブラ市 ） - フィールド事務所（ムランビヤ県キガンダ郡カネグワ村、ムランビヤ県キガンダ郡レンガ村）		
海外における主な協力団体	●カンボジア　Mines Advisory Group(MAG) The Department of Agriculture, Forestry, and Fisheries in Battambang Province Community Rural Development and Natural Agriculture for Supporting Environment(CRDNASE) ●ラオス　MAG-Lao / UXO-Lao The Agricultural and Forestry Office of Pek District, Xieng Khouang Province ●ウガンダ　[redacted] World Vision Ugada Refugee Law Project / The Center for Victims of Torture Gulu NGO Forum ●ブルンジ　Kiganda Commune Office, Muramvya Province		

理事	小川真吾 / 鬼丸昌也 / 中井隆栄 / 岡田則子 / 新居真衣 / 渡邉真規 / 江角泰
監事	鯉田勝紀（ 公認会計士・税理士 / 鯉田会計事務所 ）
スタッフ	●本部事務局（京都）　有給専従職員　10名　インターン　5名 ●大槌事務所（岩手）　有給専従職員　1名　有給非専従職員　3名 ●佐賀事務所（佐賀）　有給専従職員　1名 ●カンボジア事務所　日本人有給職員　1名　ローカルスタッフ　8名 ●ラオス事務所　日本人有給職員　1名　ローカルスタッフ　2名 ●ウガンダ事務所　日本人有給職員　2名　ローカルスタッフ　33名 ●コンゴ事務所　日本人有給職員　0名　ローカルスタッフ　16名 ●ブルンジ事務所　日本人有給職員　1名　ローカルスタッフ　9名
会員数	ファンクラブ会員 1,705名 / 正会員 64名 / 個人賛助会員 129名 / ジュニア賛助会員 6名 / 団体賛助会員 28団体 法人サポーター 180団体 【 定款上の会員合計 2,112名・団体 】
加盟団体	(特活)関西NGO協議会 / (特活)国際協力NGOセンター / 日本小型武器行動ネットワーク (特活)地雷廃絶日本キャンペーン / 児童労働ネットワーク / SDGs市民社会ネットワーク 市民ネットワーク for TICAD / 新公益連盟 / 京都経営品質協議会 / 関西SDGsプラットフォーム 佐賀NGOネットワーク / The International Action Network on Small Arms(IANSA) Gulu NGO Forum

2019年度決算ならびに2020年度予算

（単位：円）

Ⅰ 経常収益の部			2019年度 予算	2019年度 決算	2020年度 予算
1. 会費収入			64,109,000	54,000,000	63,000,000
2. 寄付収入			76,700,000	80,859,085	92,000,000
3. 事業収入			25,720,000	49,722,023	40,313,480
4. 助成金等収入			91,133,600	60,558,042	90,728,273
5. その他収入			0	1,462,361	0
経常収益合計			257,662,600	246,601,511	286,041,753
Ⅱ 経常費用の部					
1. 事業部門	海外事業	カンボジア事業	24,790,562	28,197,683	24,797,380
		ラオス事業	8,038,212	7,417,029	24,322,863
		ウガンダ事業	47,435,598	59,493,840	70,275,480
		コンゴ事業	27,108,702	31,321,981	32,298,755
		ブルンジ事業	37,687,832	29,313,036	15,181,014
	国内事業	東日本大震災復興支援事業	20,253,803	17,905,320	23,886,710
		啓発事業	62,587,754	50,319,975	63,134,803
		アドボカシー（政策提言）	3,290,256	2,749,722	4,108,673
2. 管理部門			19,285,525	8,907,398	21,219,442
経常費用合計			250,478,244	235,625,984	279,225,120
当期経常増減額			7,184,356	10,975,527	6,816,633

国際協力事業費明細

（単位：円）

カンボジア事業	地雷撤去支援プロジェクト	910,092
	地雷埋設地域村落開発支援プロジェクト	6,529,658
	地雷埋設地域の脆弱な障害者家族への生計向上支援プロジェクト	20,757,933
	合　計	28,197,683
ラオス事業	不発弾撤去支援プロジェクト	51,888
	社会的弱者家庭への不発弾回避教育と生活基盤整備支援プロジェクト	548,413
	産学民連携による持続可能な森林保全のための自然共生型産業の普及活動 ラオス不発弾汚染地域における養蜂の技術向上と普及を目指した“farm miel”プロジェクト"	6,816,728
	合　計	7,417,029
ウガンダ事業	元子ども兵社会復帰支援プロジェクト	15,940,109
	元子ども兵社会復帰支援プロジェクトにおける長期的インパクト評価事業	1,114,035
	南スーダン難民居住区におけるPSNsに対するオーダーメイド型人道支援プロジェクト	1,238,809
	南スーダン難民居住区及びホストコミュニティにおける自立支援プロジェクト	36,897,120
	畜産支援による酪農組合開発事業（第2フェーズ）後方支援事業	3,925,236
	ウガンダにおける新型コロナウィルス対策支援事業	378,531
	合　計	59,493,840
コンゴ事業	南キブ州における紛争下で生きる最脆弱層世帯の初等教育支援および養蜂ビジネス起業支援プロジェクト	8,372,176
	南キブ州における子どもの徴兵予防プロジェクト	3,801,042
	南キブ州における紛争被害女性の生計向上支援フォローアッププロジェクト	1,654,847
	中央カサイ州における紛争の影響を受けた最脆弱層女性に対するレジリエンス向上プロジェクト	17,493,916
	合　計	31,321,981
ブルンジ事業	ブルンジ農村部コミュニティにおける社会的弱者（EVIs）世帯の自立と自治支援プロジェクト	13,485,694
	ブルンジにおける紛争被害者及び最貧困層住民の能力開発を通した コミュニュティーレジリエンス向上プロジェクト フェーズ2 ～生産者協同組合の基盤整備支援～	1,384,289
	マカンバ県ニャンザラック郡における帰還民・国内避難民・ホストコミュニティの能力強化を通した コミュニティレジリエンス促進プロジェクト	14,443,053
	合　計	29,313,036

助成金内訳

（単位：円）

助成機関　※順不同	受取助成金	前受金
1. 京都生協協同組合 社会貢献助成金制度	300,000	0
2. 外務省 日本NGO連携無償資金協力	27,971,175	44,644,714
3. 外務省 日本NGO連携無償資金協力	0	23,099,572
4. 国連開発計画	2,458,785	0
5. 京都地域創造基金	671,400	0
6. 三井物産株式会社 三井物産環境基金	1,397,899	0
7. 宗教法人 真如苑	2,333,333	1,666,667
8. 公益財団法人 日本国際協力財団	3,886,775	1,143,589
9. 公益財団法人 日本国際協力財団	10,000,000	0
10. 国際移住機関	11,509,495	0
11. 京都府人権啓発推進室	29,180	0

［上記に伴う各案件名］(1)地雷埋設地域自然資源を活用したレジリエンス向上支援 / (2)南スーダン難民居住区及びホストコミュニティにおける自立支援プロジェクト / (3)社会的弱者家庭への不発弾回避教育と生活基盤整備支援プロジェクト / (4)中央カサイ州における分野横断型職業訓練センター建設及び紛争被害女性のエンパワーメントプロジェクト / (5)ウガンダ北部における元子ども兵社会復帰支援プロジェクト / (6)産学民連携による持続可能な森林保全のための自然共生型産業の普及活動 ラオス不発弾汚染地域における養蜂の技術向上と普及を目指した"Farm miel"プロジェクト / (7)南キブ州における子どもの徴兵予防プロジェクト / (8)ウガンダ北部における畜産支援による酪農組合開発事業（第2フェーズ）後方支援事業 / (9)ブルンジ農村部コミュニティにおける社会的弱者（EVIs）世帯の自立と自治支援プロジェクト / (10)マカンバ県ニャンザラック郡における帰還民・国内避難民・ホストコミュニティの能力強化を通したコミュニティレジリエンス促進プロジェクト / (11)京都ヒューマンフェスタ2019出展団体経費助成

独立行政法人 国際協力機構からの業務委託事業

（単位：円）

事業名称　※順不同	事業収益	前受金
1. 草の根技術協力事業	18,883,472	0
2. NGO等活動支援事業	1,469,775	279,225

貸借対照表（2020年3月31日 現在）

（単位：円）

Ⅰ 資産の部			Ⅱ 負債の部		
1. 流動資産			1. 流動負債		
現金預金	100,409,404		未払金	6,207,460	
売掛金	691,358		前受金	70,833,767	
未収金	4,696,274		預り金	590,759	
商品	5,279,143		未払法人税等	223,000	
立替金	79,587		未払消費税等	2,746,300	
マイクロクレジット	1,868,393		流動負債合計	80,601,286	
流動資産合計	113,024,159		2. 固定負債		
2. 固定資産			長期借入金	4,107,326	
有形固定資産	10,196,380		固定負債合計	4,107,326	
投資その他の資産	490,000		負債合計	84,708,612	
固定資産合計	10,686,380		Ⅲ 正味財産の部		
資産合計	123,710,539		前期繰越正味財産	28,249,404	
			当期正味財産増減額	10,752,523	
			正味財産合計	39,001,927	
			負債及び正味財産合計	123,710,539	

監査報告書

特定非営利活動法人テラ・ルネッサンス　理事長　小川真吾　殿　　2020年6月17日　特定非営利活動法人テラ・ルネッサンス　監事　鯉田勝紀

私は、平成31年4月1日から令和2年3月31日までの令和元年度における会計及び業務の監査を行い、次の通り報告する。

1、監査の方法概要
（1）会計監査について、帳簿ならびに関係書類の閲覧など、必要と思われる監査手法を用いて計算書類の正確性を検討した。
（2）業務監査について、理事から業務の報告を徴収し、関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続きを用いて業務執行の妥当性を検討した。

2、監査意見
（1）活動計算書、貸借対照表及び財産目録は会計帳簿の記載金額と一致し、法人の収支状況及び財産状態を正しく表示していると認める。
（2）業務報告書の内容は真実であることを認める。（3）理事の業務執行に関する不正の行為、又は法令もしくは定款に違反する重大な事項はないと認める。　以上

原本は別途保管しております。

様々な方法で、テラ・ルネッサンスの活動にご参加ください。

寄付で応援 ····· 当会へのご寄付は、寄付金控除などの税制上の優遇措置の対象です。

継続して寄付

個人の方	**ファンクラブ会員（月々1,000円から）** 利用方法：クレジットカード、口座振替
法人の方	**法人サポーター（月々5,000円から）** 利用方法：クレジットカード、口座振替



個人の方、団体・法人の方、それぞれ継続的にご支援いただける会員制度をご用意しています。特典としては、年次報告書や、ニュースレター、海外からのポストカードなどをお届けしています。お申し込みはホームページ、またはお電話でも受付中。また、すでに会員の方は、金額の変更も可能です。お気軽にお問い合わせください。

今回のみ寄付

● 一般寄付 利用方法：クレジットカード、郵便・銀行振込	**● ふるさと納税（寄附）** 利用方法：クレジットカード、郵便振込用紙※

寄付金の控除額には一定の限度額があります。詳細は、最寄りの税務署にお問い合わせいただくほか、ふるさと納税の場合は、総務省の「ふるさと納税ポータルサイト」をご覧ください。総務省の通知（平成31年総務省告示第179号第2条第1号ニ）により、佐賀県民の皆様からのご寄附につきましては、返礼品をお選びいただけないことになっております。ご理解とご協力をいただきますようお願い申し上げます。また、法人としてふるさと納税のご寄附をされた場合に返礼品をお受け取りされると、受贈益として計上されますので、ご注意ください。（※ふるさと納税の郵便振込用紙をご希望の際は、テラ・ルネッサンス事務局までお問い合わせください。）

古着や古本、不要になったモノの回収で応援

フクサポ
対象：コート、シャツ、ズボンなど

キフ★ブック
対象：ISBNのある本、CD・DVDなど

着なくなったシャツやズボン、読まなくなった本やCD・DVDなどを回収して支援ができる『めぐるプロジェクト』。身近な国際協力として、幅広くご好評いただいています。その他にも書き損じはがきなど、不用品の回収支援は、様々な種類をご用意しています。詳しくは、テラ・ルネッサンスのホームページをご覧ください。

ご支援のお申込み・お問合わせは、テラ・ルネッサンス事務局まで

電話 075-741-8786（月-金 10:30-18:00）　FAX 075-741-7965
メール contact@terra-r.jp　Web テラルネッサンス 検索









Terra Renaissance

ひとり一人に未来をつくる力がある

認定NPO法人 テラ・ルネッサンス

〒600-8191 京都府京都市下京区五条高倉角堺町21番地 jimukinoueda bldg. 403号室

TEL：**075-741-8786**　FAX：**075-741-7965**　E-mail：**contact@terra-r.jp**

HP：www.terra-r.jp　Facebook：terra.ngo　Twitter：@terra_ngo

表紙／カンボジアの生計向上支援活動で家畜飼育に取り組む家族の様子。男の子の笑顔が素敵です。

本書の一部または全てを複写・転載引用する際には、予めテラ・ルネッサンス事務局までご連絡ください。 ©2020 Terra Renaissance

発行◎ 2020年9月　/　デザイン◎ 小田起世和　大木美登里　戸田優希子